

★ 提案40の賛成意見 ★

提案40に賛成して、有権者により承認された独立した市民選挙区変更委員会を保護しましょう

提案40に賛成すると、有権者承認済みの独立した市民選挙区変更委員会により作成された州上院議員選挙区地図が引き続き使用されます。

提案40に反対すると、独立した委員会により作成された公平な選挙区を覆す機会を政治家に与えることになり、そのプロセスに多額の税金が投入されることが予想されます。

提案40は有権者に承認された市民委員会と利己的な政治家のどちらに信を置くかというシンプルな問いかけです

2008年にCaliforniaの有権者により提案11が承認され、州議会上院と下院の選挙区地図を作成する機関として独立した市民選挙区変更委員会が設立されました。提案11の成立以前は、州議会の政治家により、候補者の競合がない、事実上再当選を保証する選挙区が策定されていました。

最近、州政府の一部の政治家から、この独立委員会が作成した州上院議員選挙区地図に対する不満の声が上がっています。これらの政治家は今回のレファレンダムを利用して、自分たちに都合の良い選挙区を取り戻そうとしているのです。

政治家はすでに法廷で敗訴しています

前述の政治家が州上院議員選挙区地図に対する訴訟を起こしたところ、California州最高裁判所は全員一致でこの訴えを退けました。

「... 委員会認定の州上院議員選挙区は、California州憲法第XXI条に規定されたすべての条件を満たしているように見受けられるだけでなく、第XXI条の現行の条項で定められた開放的かつ超党的であり、透明性が高いと思われるプロセスを通じて作成されている」 *Vandermost v. Bowen* (2012年)

判決文全文は www.courts.ca.gov/opinions/archive/S198387.PDF でご覧いただけます。

提案40はCalifornia州有権者の意思を支持します

California州の有権者は過去4年間に3度の投票で、政治家ではなく、独立した委員会が作成した選挙区地図を支持するという意思を表明しました。

- 提案11への賛成(2008年): 州議会上院と下院の選挙区地図を作成する機関として独立した市民選挙区変更委員会を設立

- 提案20への賛成(2010年): 提案11の適用範囲をCalifornia州連邦議員選挙区に拡張

- 提案27への反対(2010): 独立委員会を排除し、州議会選挙区の策定権限を自分たちの手に戻そうとする政治家の試みを拒絶

提案40に賛成をすると、政治家に説明責任を課すことができます

提案11と20の成立、提案27の破棄により、州政府が関与しない公平な選挙区改定プロセスが確立されました。

有権者により承認されたこれらの変革を受けて、2012年の選挙より、過去数十年で初めて独立委員会により制定された公正な選挙区が州議会および連邦議会に対して適用されるようになりました。

この改革により、州民に開かれた透明性の高い選挙区改定プロセスが誕生し、政治家の密室政治は終わりを告げました。現在、政治家は再当選の保証を失い、反対に有権者に対する説明責任と有権者のニーズに応える責任を課されています。

「委員会は政治家をプロセスから排除し、政治を変える力を有権者に戻した」—John Kabateck, エグゼクティブディレクター、National Federation of Independent Business/California

提案40に賛成して、有権者承認済みの選挙制度改革を無効化しようとする政治家の試みを阻止しましょう

www.HoldPoliticiansAccountable.org

JENNIFER A. WAGGONER、プレジデント

California州女性投票者連盟

DAVID PACHECO、プレジデント

AARP California

ALLAN ZAREMBERG、プレジデント

カリフォルニア州商工会議所

★ 提案40の賛成意見に対する反論

提案40を支持しますが、反対派の意図は2012年度の委員会決定の州上院議員選挙区を覆すことでした。しかし、2012年も選挙区を維持するという州最高裁判所の判決も下されており、もはや反対票を求めることはありません。

JULIE VANDERMOST、支持者

提案第40号

★ 提案40への反対意見 ★

提案40の公式支持者として、私たちの意図は、この法案により現行の州上院議員選挙区が2012年度の投票に導入されることを阻止することでした。しかし、最高裁はプロセスを見直した上で、この選挙区を維持するという判断を下しています。この裁判所の判決により、本法案は不要となったため、もはや反対票を求めることはありません。

JULIE VANDERMOST、支持者
提案第40号

★ 提案40の反対意見に対する反論 ★

有権者承認の独立した市民選挙区変更委員会を保護するには、提案40に賛成票を投じる必要があります。

上記のように、レファレンダムの支持者はもはや反対票を求めないとしていますが、有権者承認の独立した市民選挙区変更委員会が作成した州上院議員選挙区地図を確実に導入するには、やはり提案40への賛成票が必要です。

レファレンダムが投票用紙に記載されてしまうと、支持者が法案を放棄したといえども、これを排除することはできません。

コストの高い代替プロセスを採用するか、有権者が承認した市民委員会を支持するか。提案40の問いはシンプルです。提案40に賛成すると、次のことを実現できます。

- 有権者承認の独立した市民選挙区変更委員会が作成した州上院議員選挙区地図を保護する
- 多額の税金を節約する
- 政治家に説明責任を課す：独立した市民委員会により選挙区が策定されるため、政治家たちは再当選の保証を失い、反対に有権者に対する説明責任と有権者のニーズに応える責任を課されます。

- 有権者の意思を支持する：California州の有権者は過去4年間に3度の投票で、政治家ではなく、独立した委員会が作成した選挙区地図を支持するという意思を表明しました。

提案40に反対をすると、独立した委員会が策定した公平な選挙区が覆され、自分たちの利益のために選挙区改定プロセスに影響力を及ぼす機会を政治家に与えることになります。

提案40に賛成を

良識ある政府、企業、高齢者支援団体、公民権団体とともに、提案40に賛成票を投じてください。

www.HoldPoliticiansAccountable.org

KATHAY FENG、エグゼクティブディレクター

California Common Cause

JOHN KABATECK、エグゼクティブディレクター

National Federation of Independent Business/California

GARY TOEBBEN、プレジデント

Los Angeles地区商工会議所